

～24年度賛助会入会ありがとうございました～

大矢 照子 松浦 和美 （敬省略）

ありがとうメッセージ

- ・6月24日（火）、もえぎの会主催のふれあいのつどいに参加してきました。7月に向けての七夕飾りを作ったり、抽選会を行ったりと、楽しい時間を過ごすことができました。いつも季節を感じられる企画を考えくださり、ありがとうございます！
- ・農家の皆様からの野菜、地域の方々からの日用品の提供、いつもありがとうございます。

★たんぽぽ掲示板★

- ・10月26日（日）城西中学校 行われる城西まつりに出店します。焼き芋、野菜、手作り雑貨、駄菓子等を販売予定です。たくさんのご来場、お待ちしております！
- ・同日10月26日（日）城坤小学校にて行われる、ふれあい城坤秋まつりに出店します。野菜、手作り雑貨、駄菓子などを販売予定です。こちらもぜひ、足を運んでいただけると嬉しく思います！
- ・TMフェスティバルを9月27日（土）たんぽぽにて開催します！フリーマーケット、子供服均一セール、語り引きコンサートを行う予定です。ご来場心よりお待ちしております★

Ⅲ 国学院大学マイノリティウィーク

精神保健福祉士 山崎 裕太

6月19日（木）、国学院大学マイノリティウィークに参加しました。たんぽぽからは、駄菓子、手作り雑貨、ポボ洗剤、ソフトクリーム等の販売を行いました。多くの学生や先生方に来ていただき、おかげさまで大繁盛となりました。メンバーの忙しいながらも充実した表情で接客をされていた姿が印象的でした。ご協力いただいた方々、本当にありがとうございました。



編集後記

日中の暑さが少し和らぎ、夕方は過ごしやすい気温になってきました。前回のLIFEでは、夏を楽しみたいとこの編集後記に記したのですが、結局今年の夏も「秋よ来い」と願って過ごしていました。しかし、たんぽぽに居ると、年中四季を感じさせてくれる野菜や果物と触れ合うため、学生の頃よりも季節の移り変わりを意識できるようになったと思います。最近では、皆さんと「そろそろ焼き芋の時期ですねー」と話をしたり、早々と、冬季に向けてわくわくしています。色々と動きのあふ日々を過ごしていますが、今年の冬はどうなるのでしょうか。また、このLIFEを通してたんぽぽの活動を報告したいと思います！

L i f e

第52号 2014. 9. 15発行
特定非営利活動法人SA、A
就労継続支援B型事業所 たんぽぽ
〒763-0066
丸亀市天満町1-2-31
TEL: 0877-22-2840
HP <http://nposaja>

2014年リカバリー全国フォーラム報告

精神保健福祉士 三宅 春菜

8月29、30日の2日間に亘り、リカバリー全国フォーラムに参加しました。副題は「リカバリー志向サービスへの転換～当事者参加による意思決定 PART2～」です。記念講演では、精神疾患の当事者でありながらニューヨーク市健康・精神衛生部局リハビリテーションプログラムディレクターとして活躍されているユミコ・イクタ氏によりニューヨーク市の取り組みが語られました。そこでは、パラシュートNYCという入院にかわるものを提供することで、危機的な状況にある人たちに「穏やかな着地点」をつくる支援がピアサポーターによって行われているとのことでした。クライシスレスパイトセンターという施設があり、そこは家庭のような環境で、ピアスタッフと臨床スタッフが配置されており、最大で14日間まで、ピアサポートや健康に関する教育、能力強化の支援が行われます。ユミコ・イクタ氏によれば、クライシス状態のクライアントの話を伺うと、その多くは病院での嫌な思い出を持っており、入院以外のサポートを希望するそうです。そのような希望がある場合に、クライシスレスパイトセンターの利用へとつなげるという話でした。

2日目のシンポジウムでは、ニューヨーク市のように実際に当事者が行政の中で新たなサポート体制を作りだしている取り組みを受け、私たち日本の精神保健福祉を取り巻く現状の中で、どうすればリカバリー志向のサービスを目指していけるのかが検討されました。

そのなかで当事者の立場から、当事者が発言する場がまだまだ少ないこと、専門家主体となっていること、当事者は支援されるだけの存在ではないという思いを知ってほしいという意見や、当事者が考えを磨くための当事者教育や勉強会なども必要となってきたという意見がありました。家族の立場としての意見は、当事者側から参画、発言したいと思えるための環境作りを支援者の役割としてほしい、自分の置かれている状況を肯定的に受け取る姿勢が必要となっており、批判だけをしてもなにも始まらないこと、攻撃していたら連携できない事実を知ることが大切だとのことでした。また、医療、地域、当事者の役割を分担するのであれば、医療は急性期の手厚いサポートを、地域は地域で暮らすためのフォローを、当事者は声を上げる人や、ひっぱっていく人を育てることがそれぞれに求められているのではないかという意見がありました。

最後に、ユミコ・イクタ氏より、アメリカでも、いろんな人や組織が集まり、自分達が動こうという意思があり、ただ変化を待っているだけではないというお話しがありました。行政や社会に意見を伝えるためには包括的に練られた戦略で、組織化する必要があります。アメリカでは、精神保健に特化した政治家にアポイントを取ることがあるそうです。計画に基づき、伝えたいことに優先順位をつけて、繰り返し何度も伝えることや、統計やコスト計算に関することは具体的な資料やプランを交えて伝えることが効果的であるとのことでした。

去年のリカバリーフォーラムでも話されましたが、フィラデルフィアでも当事者運動が社会を動かした歴史があります。今後も、精神保健福祉の動向に目を向け、それぞれの役割の中で働きかける所はどこなのか、どう動くべきであるのかを今一度考える必要があると思いました。

天満神社夏祭り！

精 保健福祉士 三宅 春菜

8月8日（金）、例年参加している天満神社夏祭りに、今年も出店参加しました！ところが、当日は朝から台風が接近しており、香川県では珍しいほどの大雨でした。夕方、実行委員の集まりがあり、もう小降りになるだろう、とのことで無事決行できる運びとなりました。神社内では、ヨーヨーすくい、ヨーヨーすくい、百本釣りの3点を、たんぽぽでは駄菓子屋・キッズショップPOP（PO）営業、野菜販売、駄菓子景品付きの輪投げなどを用意しました。スタート前には、毎年恒例の理事長オリジナルカレーが振る舞われました。理事長によると、隠し味に、あるお菓子が入っているそうです。ルウのみを使ったカレーとは一味違い、大好評でした！そのように夕方を過ごし、準備万端で出店しました。お祭りが始まると、不思議と小雨になり、例年通りとはいきませんでしたが、地元のお客さんに来ていただき、出店を楽しんでいただけたのではないかと思います。片付け後、作業場にてお疲れさまミーティングが開かれ、参加してくれたボランティアの学生さんへ向けたお礼の言葉やいたわりの言葉、反省点などを共有する時間となりました。



スタッフのつばやき

所長 村井 誓子

現在、当法人主催と全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）主催の研修会を企画しています。

当法人主催の地域生活支援関係職員研修会は例年おこなっており今回は10月11日（土）に『ドコニモイケナイ』の映画上映とその監督の講演会となっています。『ドコニモイケナイ』は渋谷で出会った一人の少女が統合失調症になる前と後、そして10年後を追いかけたドキュメンタリー映画です。患者としてではなく一人の人間としての生き様を描き出した作品となっています。



あみ主催の研修会は全国大会（フォローアップ）としておこなうものであり、私達も会員事業所とともに実行委員としてあたります。12月20日（土）にこちらもユープラザうたづにて開催します。テーマは『生活者として生きる』～地域生活支援の新たな展開～です。午前中は「岡山での居住支援の取り組みと課題について」NPO法人おかやま入居支援センター理事の阪井ひとみ氏の講演、午後からは行政報告とシンポジウムを予定しています。「～地域生活のビジョンを描こう～」と題して愛媛、広島、香川と3名のシンポジストに登壇していただき、地域移行の取り組み、地域における相談支援、地域交流と地域再生のお話をしていただく予定です。講演予定の阪井さんは、住まいが見つからないことが理由で、長期の入院生活をおくる精神障害者らのために、18年前から入居支援を行っています。現在およそ450人の精神障害者を自ら管理するアパートを受け入れ、家族の支援が受けられない人でも自立して、地域で安心した暮らしができるよう、行政や弁護士、医師、看護師、社会福祉士らと連携しながらサポートをしています。生活の基盤となる住居の支援は当事者にとって心強く、入居後のサポートも行っている点、またその活動が他の不動産関係者に対する精神障害者への啓発につながる点が高く評価されています。

2つの研修会では私たちが日々実践している福祉について改めて共に考え、学ぶ機会になると思い、企画しつつも楽しみにしています。是非大勢の方々のご参加をお待ちしています。



主任 小西 靖代

製造班では、昨年秋頃からの人手不足により、クッキー製造がメンバーの負担となっており、減産や製造時間の短縮等配慮しながら、クッキー製造を続けてきました。春を過ぎたころから、メンバーも増え、少し余裕が見えてきました。そこで、定番クッキーの改良、新しいクッキーの開発という2つをテーマに約3カ月間、試作やミーティングを重ねてきました。そして、定番クッキーについては、「マンネリ化しているのでは？」という意見から、従来のココアとバニラのうずまきクッキーをハート型にし、丸型を少し小さく、食べやすい大きさへと改良しました。また、新商品として、「希少糖紅茶クッキーを作ろう」という提案から試作を開始、数々の失敗を繰り返し、その都度話し合い、改良に改良を重ね、材料の厳選、成分のカロリー計算、価格の設定、袋のラベル作成等、メンバーが得意なことを活かし、メンバーの様々な思いが詰まり、製造班が自信を持って作りあげた「希少糖紅茶クッキー」です。甘さ控えめで紅茶の香りも高く、カロリー控えめのクッキーとなっています。9月末より委託先、バザー等で販売を開始する予定となっています。見かけた際にはぜひご賞味いただきたいと思います。

たんぽぽ暑気払い、とみた研修

8月26日（火）には、暑気払いということで、近隣の居酒屋「うまか房」にて食事会が開かれました。知り合いのご厚意により実現できているこの食事会ですが、今回もメンバー、スタッフ合わせて20名弱で行いました。最近、新メンバーが増え始めていたため、「たんぽぽへようこそ！」と、理事長の挨拶から始まり、和やかなムードでわいわいと楽しめたように思います。

例年、この忘年会や暑気払いは夜開催されるので、参加したいけど時間的に難しいメンバーもいたため、9月1日（月）の他施設見学交流会で訪問した、徳島県海部郡美波町では、お昼に皆でバイキングを食べに行きました。家庭的な味でとてもおいしかったです。本題の訪問先の施設「とみた県南コミュニティセンター」では、施設の紹介や案内、自主製品である茄子の漬物の試食、番茶の試飲などを体験させていただきました。ここで、見学の感想を紹介したいと思います。



とみたの良さは皆が仕事に集中しているところです。仕事をする時皆の目が変わるのを見て一言、「へえー、一言も言葉を交わさないのにビックリ。」チームワークが素晴らしい場所だと思いました。（前川 尚人）



たんぽぽと同じB型の施設も含め、内職のことに関する質問にも丁寧に答えて頂き、勉強になりました。（田中 美穂）

「とみた」がどのような活動をされているのかといったお話を聞けて色々勉強になりました。特に、町内会の活動への参加等といった地域一体となった取り組みをされているお話が聞けたことは印象的でした。たんぽぽでも、今年のスローガンである「地域ぐるみ」の取り組みに向けて参考になる点が多くあるように思いました。今回は本当にありがとうございました。（I 崎 裕太）

「地域活動支援センターとみた」ではメンバーさんがすすんでボランティアをしており、地域に密着しているのだと思いました。「就労継続支援B型事業所 こうぼう とみた」では地域の人に収穫物をもらったり、休耕田を借りたりし、その地域の人達と利益を分け合っていました。地域と連携し、地域に根付いた活動をしているのだと思いました。（匿名）